

～患者団体向けインフォメーション・セッションを開催～
＜ “リーダーシップ・マネジメント” のスキルアップを目的に、
“ファシリテーション” の手法に関する講義と実践的な演習を実施＞
4名の講師による講義～参加者同士でのグループ別模擬会議を展開

日時：2013年12月16日(月曜日)

場所：東京・市ヶ谷

PhRMAは、日本の患者団体の方々への支援活動の一環として、去る2013年12月16日(月)、患者団体の方々を対象に、2013年度3回目となる「インフォメーション・セッション」を開催しました。今回は、会議などにおいて、参加者の意見を引き出し、まとめあげる手法・技術である、“ファシリテーション”をテーマに、ワークショップ形式で開催しました。

2011年以降、PhRMAでは、当セッションを通じて、患者団体の方々へ、他国の医療制度や保健制度の実情、そして日本の患者団体による医療政策に関する提言・参画事例を紹介する講演や、ディベート・トレーニング、メディア・トレーニング等、実践的なワークショップの機会を提供しています。今回は、患者団体の幹部をはじめとする方々が、所属する団体を運営していく上で必要となる、“リーダーシップ・マネジメント”に主眼をおいたプログラムとしました。

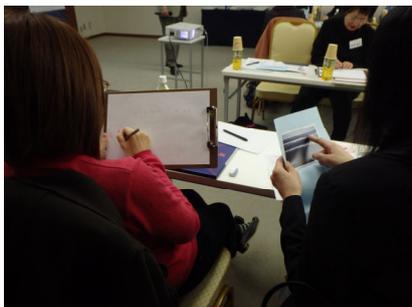
【講義・ワークショップ『コミュニケーション・トレーニング』】

まず、冒頭で、プレゼンテーションスキルについて造詣の深い、元・東京工業大学 特任教授の高木 正明氏が、講義とワークショップを展開。2人1組で、相手に見せずに絵葉書に描かれた絵を言葉のみで説明し、描いてもらう、という簡単なワークショップを通じて、「伝えることの難しさ」を実感していただきました。

講師：高木 正明氏



講義・ワークショップ風景



【講義『リーダーシップとガバナンスのポイント』】

その後、一般社団法人実践コーポレートガバナンス研究会 専務理事の安田 正敏氏が、講義を行いました。リーダーに必要な資質や、リーダーシップと管理能力について等、一般企業と同様に、患者団体にも共通して活用できる、組織の運営手法について、解説しました。

講師：安田 正敏氏



【講義『ファシリテーションを理解する』】

続いて、事業法人向けの管理職研修を主要業務とする、シグマベイスキャピタル株式会社 社長の林 謙二氏が、講義を行いました。今回のメインテーマである「ファシリテーション」について、定義に基づいて、リーダーとファシリテーターの違い、ファシリテーターに必要なスキル、さらに具体的な手法、問題に面した際の対処例までを説明しました。

講師：林 謙二氏



【ワークショップ『ファシリテーションの演習とディスカッション』】

続くワークショップでは、リーダーシップ教育等に造詣の深い、シャピロ&アソシエーツ代表のデーヴィッド・シャピロ氏の指導で、実際にファシリテーションの演習を実施。ランダムに分けられた4つのグループごとに、指名された参加者がファシリテーター、ならびに書記兼タイムキーパーを務め、2つのテーマについて、ファシリテーションの手法を用いた模擬会議を進行しました。1回目の「子どもが進んで本を読むようになるには、どうしたら良いか？」という一般的なテーマでのディスカッションで、参加者に『ファシリテーション』の感覚をつかんでもらった後、2回目の「患者団体の後継者を育てるために、どうすべきか？」という、参加者にとってより切実なテーマについて、活発に議論が交わされました。2回目の演習の後は、各グループのファシリテーターより、グループの最終的な意見を発表していただきました。

講師：デーヴィッド・シャピロ氏

演習風景



発表・ディスカッション・講評風景



最後にまとめとして、それぞれのグループにオブザーバーとして参加していた講師より、各グループの演習の様子に対して講評。良かった点や改善点等、今後、各患者団体がそれぞれの活動に活かすためのポイント等をアドバイスしました。

今回は、22 団体 37 名の患者団体の方々が参加。参加者からは、「ファシリテーションの技法は大変建設的で良い。もっと対話型会議を増やしていきたい」、「これまで、自分が司会をするとまるで仕切っているようになっていたが、リーダーとファシリテーターの違いを知って、これまでの疑問が晴れた」、「これから会議などでの進行に自信を持って取り組めそうだ」等、今後の活動につながるコメントが数多く寄せられました。